

第5学年 社会科「自動車の生産にはげむ人々」

◆本時の指導（第8時／全9時間）



(1) 本時の目標

環境や福祉などに配慮した自動車に着目して、多様な人々のニーズや社会の動向を反映した自動車生産が進められていることを捉える。

(2) 本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 前時の学習をふり返る。 ・前時に挙げた新しい自動車のニーズを確認する。 ・ニーズに応えた開発の流れについて確認する。	・前時の「様々な人が自動車で求めるもの」（テキストマイニング）を活用して、前時に挙げた自動車に乗る人が求めていることを確認させる。 ・カードを使って、開発の流れを確かめさせる。
	現在、どのようなことを大切にして、自動車開発をしているのだろう。	
展開	2 各種のニーズに対応して生産されている自動車について資料から読み取り、ノートに整理する。 ①3つの資料を分担して読み取る。（シグソー学習） ②読み取った内容を情報交換しながら、ノートにまとめる。	・クラスルームで個別に配布した「環境にやさしい」「誰もが移動しやすい」「自動車工場でも」のうちどれか一つの資料を読み取らせる。 ・読み取った内容を同じグループの人と共有し、整理させる。 ・全体共有の場で、黒板に整理した内容を示し、理解を深めさせる。 ★【人間関係形成・社会形成能力】 グループ内や全体共有の場で、読み取った内容を分かりやすく伝えたり、友達の意見を聞き取ったりする。
まとめ	3 本時の振り返りをする。	・「安全」「環境」「開発」をキーワードにして、本時の学習をまとめさせる。 ◇多様な人々のニーズや社会の動向を反映した生産が進められていることを捉えている。（ノート）

◆ 成果と課題

【成果】

ほとんどの児童が担当した資料を主体的に読み取ることができていた。その上で同じ資料を読み取った人と情報交換する時間を設けたことで、資料をより深く理解し、「考えや気持ちを聞く・伝える力」の育成につながった。

【課題】

伝え合いの場面では、個人差やグループ差が出た。読み取りと伝え合いの場面で、助言や何らかのヒントを提示する手立てが必要であった。

第5学年 社会科「水産業のさかな地域」

◆本時の指導（第4時／全9時間）



(2) 本時の目標

さんまが消費者のもとに届くまでの様子に着目して、出荷や流通、輸送のはたらきと、それに関わる人たちの工夫や努力を捉える。

(2) 本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	<p>1 前時の学習をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> さんまの水揚げからスーパーマーケットまでの様子を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレットでまとめたものをもとに、各作業を示した画像を黒板に貼り、水揚げからスーパーマーケットまでの流通の流れを確認する。【 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>どのようなくふうや努力をして、さんまを消費者に届けているのだろう。</p> </div>
展開	<p>2 各作業に関わる人たちの工夫や努力を調べ、話し合う。</p> <p>①工夫や努力を調べ、ノートに書く。 ②調べた工夫や努力について、発表し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P56～89の資料や説明から、関わる人たちの工夫や努力を見つけさせる。 工夫や努力について短い言葉で表現し、前時にまとめた図に追記させる。 友達の意見を聞いたり、追記された黒板を見たりして、各作業と工夫・努力について整理して理解させる。 「消費者の願い」と、さんまを消費者に届ける行程における工夫や努力と対比させる。 <p>★【キャリアプランニング能力】 さんまを消費者に届けるための工夫や努力、その思いを捉える。</p>
まとめ	<p>3 本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「新鮮さ」「衛生面」「時間」をキーワードにして、本時の学習をまとめさせる。 ◇さんまの出荷や流通、輸送に関わる人たちの工夫や努力を理解している。（ノート）

◆ 成果と課題

【成果】

前時に行ったグーグルドキュメントを使用して「さんま漁から消費者に届くまで」の写真と言葉の並べ替えを行ったことで、本時の各作業での関わる人々の工夫や努力について理解を深め、それを基にスムーズに話し合いを行うことができた。

【課題】

教科書の写真や説明から読み取る力が必要だったため理解に個人差が大きく現れた。ヒントカードや机間指導による適切な言葉かけが必要であった。

第5学年 社会科「自動車の生産にはげむ人々」

◆本時の指導（第8時/全9時間）



(3) 本時の目標

環境や福祉などに配慮した自動車に着目して、多様な人々のニーズや社会の動向を反映した自動車生産が進められていることを捉える。

(2) 本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 前時の学習を振り返る。 ・開発部門で働く人々が新しい自動車の開発を進めていることを確認する。	・前時のノートを確認し、自動車の生産にはたくさんの関わっている人たちがいることを確認する。
	今の自動車づくりには、どのようなことが求められているのだろう。	
展開	2 各種のニーズに対応して生産されている自動車を資料から読み取り、ノートに整理する。 ①工夫や努力を調べ、ノートに書く。 ②調べた工夫や努力について、発表し合う。 3 自動車工場でも、同じように「ユニバーサルデザイン」「安全」「環境」に気を付けていることがあるかどうかを教科書から読み取り、話し合う。	・教科書P134～135の資料や説明から、これらのニーズに対応している自動車を見付けさせる。 ・友達の意見を聞いたり、追記された黒板を見たりして、「ユニバーサルデザイン」「安全」「環境」について整理して理解させる。 ・自動車工場の工夫を読み取り、話し合いながら「ユニバーサルデザイン」「安全」「環境」の3つに分類する。 ★多様な人々のニーズや社会の動向を反映した自動車生産が進められていることを捉える。
まとめ	4 本時の振り返りをする。	・板書を振り返り、今後どのような自動車生産が求められていくと思うかノートに記入する。 ◇多様な人々のニーズを社会の動向を反映した生産が進められていることを理解している。（ノート）

◆ 成果と課題

【成果】

「ユニバーサルデザイン」「安全」「環境」に気を付けていることについて、積極的に話し合うことができていた。これからの自動車の生産について考えることを通して、「次のことを考える力」を育むことができた。

【課題】

「ハイブリッド車」や「乗り降りしやすいように回転する自動車のシート」などのイメージがしきれていない児童もいた。自分の考えをもつ手立てとして動画資料などを提示する必要がある。



第5学年 算数科「四角形と三角形の面積」

◆本時の指導（第7時／全11時間）



(1)本時の目標

台形の性質に着目し、面積の求め方を考え、説明することができる。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 前時までの学習を振り返る。 2 課題をとらえ、解決の見通しをもつ。	・前時までの学習を振り返り、公式を使って平行四辺形や三角形の面積を求める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">台形の面積の求め方を考えよう。</div>
		・面積の求め方が未習の図形について、既習の図形に変形して面積を求めてきたことを想起させ、解決の見通しをもたせる。
展開	3 台形の面積の求め方を考える。	・できるだけ多様な方法で考え、図や式で表現するように促す。 ・多様な考え方を書いて説明できるよう、1人につき3枚のワークシートを用意する。 ◇台形を面積の求め方がわかっている図形に工夫して変形し、その面積を求めようとしている。（観察・ワークシート）
	4 台形の面積の求め方を説明する。	・デジタルコンテンツを活用して図形を動かし、友達の考え方の理解をより一層促す。【Dコンテンツ】 ・黒板に提示された友達の図を見て、その考え方を説明させる。 ★友達の考えに関心を持ち、その考えを受け入れて理解することができる。
まとめ	5 本時の学習を振り返る。	◇台形の性質に着目し、台形の面積の求め方を平行四辺形や三角形の求積方法に帰着して考え、筋道立てて説明している。（観察・ワークシート） ・本時までの学習を振り返り、今後どのような場面で平均を求めるとよいか考えさせる。

◆ 成果と課題

【成果】

自分の考えをワークシートに書いた後、その考えを周囲に説明し、発表の場では友達のことを説明するという2段階構成の展開とした。考えを書いたワークシートを書画カメラで映し、黒板にもその図を大きく拡大して提示し、さらにDコンテンツでその動かし方を動画で見せる工夫をしたことで、じっくりコースの児童にも友達のことを説明しやすくなった。

【課題】

友達の考えが自分と同じ考えの場合は集中して話を聞くことができていたが、違う考えを受け入れることに時間を要する児童がいたので、考えが発表された後にその考えを自分も書いてみるよう促すことで、より一層理解を深めていく。

第5学年 算数科「平均」

◆本時の指導（第4時／全5時間）



(1)本時の目標

単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 前時までの学習を振り返る。 2 課題をとらえ、解決の見通しをもつ。	・今までの学習を振り返り、どのような場面で平均を求めたのかを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 歩はばを使って、およその道のりを調べよう。 </div>
展開	3 10歩で歩いた長さを3回測り、自分の歩幅を求める。 ・一人3分で3回測る。 4 教室前から算数ルーム前まで歩いた道のりの長さを求める。 ・線から線まで1回だけ歩く。	・歩幅は、爪先から爪先までの長さであることをおさえる。 ・測定方法や、複数回測定することの意味を十分理解させた上で測定を行うようにする。 ・一人3分で3回測定することを伝え、子供たち全員が活動内容を把握した上で測定活動を行うようにする。 ・屋上に移動し、活動スペースを十分に確保する。（雨天時は1階東昇降口前に移動する。） ・3～4人組で「歩く係」「巻き尺の0をおさえる係」「巻き尺のめもりをよむ係」などの分担を決めて取り組む。 ・割り切れないときは、上から2桁の概数にする。 ・5年教室前から算数ルーム前まで歩き、歩幅×歩数で長さを求める。あらかじめ測定しておいた長さを伝え、結果を比較する。 ◇学習内容を適切に活用して筋道立てて考え、問題を解決している。（観察・ワークシート） ★活動の見通しをもって行動できる。
まとめ	5 本時の学習を振り返る。	・本時までの学習を振り返り、今後どのような場面で平均を求めるとよいか考えさせる。 ◇学習内容を生活に活かそうとしている。（観察・ワークシート） ★自分自身の生活を振り返ったり、友達の意見を参考にしたりして、どのようなときに平均を求めるとよいか見つけることができる。 ・教科書 p.26 ますりん通信を読み、外れ値の扱いに触れる。

◆ 成果と課題

【成果】

グループ活動に入る前に分担を決め、一人3分で3回測定することを確認したことで、一人一人が見通しをもって測定活動を行うことができた。

【課題】

日常生活の中でどのような場面で平均の学習を生かせるのか、ICTを活用して場面分けを視覚化すると、より一層理解を深められたのではないかと考える。

The image shows a classroom setting with a digital screen and a chalkboard. The digital screen displays a math problem and its solution. The chalkboard has handwritten notes and a date.

Digital Screen Content:

目標
10歩で歩いた長さ

1	2	3
$8 = 08 \text{ cm}$	$8 = 35 \text{ cm}$	$8 = 53 \text{ cm}$

3回測定の平均を求めよ。
→0cmに直して測る。1回1.5m、2回2.2m、3回2.4mに直して測る。

式 $(8.08 + 8.35 + 8.53) \div 3 = 8.32$

答え 8.32 m

歩幅を求めよ。

式 $8.32 \div 10 = 0.832$

答え 0.83 m

けたに数えたい

Chalkboard Content:

11月17日(木)

○歩幅を使って
およその道のりを測ろう。

歩幅

10歩で歩いた長さを3回はかる。

3回の平均を求めよ。

歩幅を求めよ。

道のり

歩幅を使って、道のりを測る。

教室 → 算数ルーム 54m

第5学年 算数科「変わり方を調べよう」



◆本時の指導（第2時／全4時間）



(1)本時の目標

比例の関係を使って、表にない部分の体積の求め方を考え、説明することができる。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 問題場面をとらえ、立式する。 2 前時を振り返り、問題解決の見通しをもつ。	・直方体の体積の公式でも求められることを確認する。 ・デジタルコンテンツを提示し、高さと体積の比例の関係を使いそうだという見通しをもたせる。
	高さが30cmのときの体積を、比例の関係を使って考えよう。	
展開	3 高さが30cmのときの体積を比例の関係(表)を使って求める。 ・〇(体積)は□(高さ)に比例するから、高さが1cm→30cmに30倍になると、体積も30倍になる。 高さが10cm→30cmに3倍になると、体積も3倍になる。 高さが6cm→30cmに5倍になると、体積も5倍になる。など	★【課題対応能力】 既習事項を使うことで、初めて出会う新しい問題を解決する。  ・基準点を変えて多様に考えることで、比例関係を使うと表にない部分の体積を求められることを確実におさえる。 ◇比例の関係を使った体積の求め方を考え、説明している。(観察・ワークシート)
	4 考えを発表し合い、検討する。 ・表や式、言葉など、いろいろな表現方法で求め方を説明する。	★【人間関係形成・社会形成能力】 考えを発表し合って、自分にとってよりよい考えを見出している。 
まとめ	5 解決の過程で働かせた見方・考え方を基に、求め方をまとめる。	・既習事項を活用し、表にない部分も比例の関係を使って求めることができたことを確認する。 ・表にない、高さが50cmや100cmなどのときでも体積が求められることを発展的に考えさせる。
	6 適用問題に取り組む。	◇表を用いて比例の関係を見出すことができる。(ノート)

◆ 成果と課題

【成果】

ワークシートを、定型文と表や式をセットで記入できるように工夫したことで、考えを発表し合う場でたくさんの考えが発表され、友達の考えと自分の考えを比較する活動に役立った。

【課題】

まとめや適用問題に取り組む時間が足りなくなってしまったので、デジタルコンテンツをより効果的に活用したり、発問を工夫したりして、児童自身で問題解決の見通しをもてるようにする必要がある。

第5学年 理科「とけたもののゆくえ」

◆本時の指導（第3時／全12時間）



(1)本時の目標

物の溶け方について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決する。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 前時に設定した問題を確認する。 【問題確認】	・実験内容も確認する。
	水にものをとかした後の水よう液の重さは、どうなるのだろうか。	
展開	2 溶かす前の全体の重さと溶かした後の全体の重さについて調べる。 【実験】	<ul style="list-style-type: none"> ・容器を振った際に、水がこぼれないようにふたをきちんと閉めるように指導する。 ・溶かした後の容器と一緒に薬包紙も電子てんびんの上に乗せて計測できるようにする。 <p>★課題の本質を理解し、適切な課題解決を導くことができる。</p>
	3 結果を記録する。【結果】	・結果は、表でまとめるようにする。
	4 結果を基に話し合う。【考察】	◇物の溶け方について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。〈発言分析・記録分析〉
まとめ	5 分かったことをまとめる。【結論】	
水にものをとかした後の水よう液の重さは、とかす前の水とものを合わせた重さと等しい。		

◆ 成果と課題

【成果】

実験内容をイラストで示すことで、薬包紙を電子てんびんにのせないで重さをはかってしまうミスを防ぐことができた。

【課題】

課題の本質を理解するためには、図で示すことや、班の中で説明し合うなど、適切な方法をとる必要がある。

第5学年 音楽科「いろいろな音の重なりを楽しもう」

◆本時の指導（第2時／全5時間）



(1)本時の目標

伴奏に合わせたり、重ね方を工夫したりしながら演奏しよう。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	<p>1 曲全体をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全パートが重なっているものを聴き、演奏のイメージをもつ。 <p>2 自分のパートを演奏練習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分のパートを演奏しているイメージをもちながら聴く。
展開	<p>3 伴奏に合わせてパートごとに演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 7つのパートが交代で演奏する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> いろいろな重ね方を試してみよう。 </div> <p>4 いろいろな音の重ね方を知り、試してみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 5つの重ね方を提示し、一つずつ演奏しながら試していく。 グループごとに重ね方を考える。 1つのグループの重ね方を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> クラベスなどで拍をとり、拍を感じながら演奏できるようにする。 音の重ね方を分かりやすい言葉で伝える。 (足し算方式・引き算方式・いっしょ・リレー呼びかけとこたえ) 言葉での説明だけでなく、重ね方を示した図形楽譜も用意し、理解できるようにする。 重ね方を試行錯誤しやすいように、工夫したワークシートや教具を用意する。 ★楽器の音が重なり合う響きを楽しみながら、意見を出し合って重ね方を工夫する。 重ね方の工夫を聴き手が感じ取って演奏者に伝える。 ◇楽器の音色やいろいろな音が重なり合う響きに興味・関心をもち、パートの重ね方を工夫する学習に主体的に取り組もうとしている。 (行動観察・ワークシート)
	まとめ	<p>5 本時のふりかえりと次時のめあてをもつ。</p>

◆ 成果と課題

【成果】

音の重ね方の例を図形楽譜や“〇〇方式”などイメージしやすい言葉で提示したことで、どの子も重ね方について自分の考えを表出することができ、聴く側も友だちの工夫に気づきやすかった。

【課題】

音楽づくりでは、試行錯誤した経過や、工夫したものが記録しやすく修正しやすい教具があるとスムーズに活動が進む。今後もタブレットの活用などを含めて考えていく必要がある。

第5学年 家庭科「物を生かして住みやすく」


◆本時の指導（第7時/全7時間）



(4) 本時の目標

これまでに学習したことを生かして、気持ちよく住むための計画を立てる。

(2) 本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 整理・整頓や掃除でどのようなごみや不用品が出たのか話し合い、書き出す。	・掃除で出ごみやよごれの行方について、4年生の社会科のごみに関する学習を振り返らせる。
	これまでに学習したことを生かして、気持ちよく住むための計画を立てよう。	
展開	2 自分の地域のゴミの出し方のきまりやマナーを調べて分類する。 3 物を生かして使う工夫や、ごみを減らすためにできることを話し合う。	・収集する人の安全にも気を配らせる。 ・動画を視聴し、発火の危険があることも押さえる。 ・3R（Reduce、Reuse、Recycle）を意識させる。 ・P57「もったいない」から、限りあるものを大切にし、長く使うという考え方にも着目させる。  ★ごみの行方について考えたり、ゴミの出し方のきまりを守らないとどうなってしまうかを考えたりする。
まとめ	4 だれもが楽しく掃除をする方法について話し合い、計画を立てる。	◇住まいの整理・整頓や清掃の仕方、環境に配慮した生活における物の使い方などについて考えてまとめている。（ワークシート）

◆ 成果と課題

【成果】

4年生の社会科「ごみの処理と再利用」での学習を振り返り、ルールを守らないことで発火してしまう可能性もあるということを動画で確認することで、「次のこと」意識して学習することができた。

【課題】

導入の「整理・整頓や掃除でどのようなごみや不用品が出たか」の例があまり出なかった。事前に家庭での様子を記録させ、イメージさせることが課題である。

第5学年 体育科「ハードル走」

◆本時の指導（第1時/全5時間）



(5) 本時の目標

様々なコースを体験し、自分に合ったインターバルを見付ける。

(2) 本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	<p>1 準備運動、めあての確認をする。 ・場の準備をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">自分の走りやすいコースを見つけよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な部位を十分にほぐすよう言葉掛けをする。 ・ハードル走に必要な動きやストレッチをする。 ・安全に気を付けて準備するよう言葉掛けをする。
展開	<p>2 ハードルを使い、リズムカルに走り越す。</p> <p>3 インターバルの違うコースを走りながら、自分に合ったインターバルを見付ける。 (5.5m、6m、6.5m、7m)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大掲示されているハードルのポイントを見ながらコツを押さえる。 ・NHK for School「はりきり体育ノ介」で学んだことも生かせるように声掛けを行う。 ・第1ハードルまで全力で走ること、遠くから踏み切ることなどを意識させる。 ・友達の運動を見たり、撮影した動画を見合ったりし、アドバイスを送る。【カメラ】 <p>★自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞き入れたりする。</p>
まとめ	<p>4 学習の振り返りをする。</p> <p>5 場の片付けをする。</p> <p>6 整理運動をする。</p>	<p>◇自己や友達の動きの変化や伸びを見付けたり、考えたりしたことを他者に伝えている。（学習カード）</p>

◆ 成果と課題

【成果】

第1時では、自分の運動をするだけで精一杯な児童が多く見られた。第2時からは、自分の課題と向き合うため、友達の運動を見たりアドバイスをし合ったりすることができていた。

ゲーム型の攻防戦と違い、自己の課題や成果と真摯に向き合うことができるハードル走は、「友達の考えを聞き入れて改善していこうとする力」を養うことができる運動だと感じた。

第5学年 特別の教科道徳「自分の役割を果たす」

◆本時の指導



(6) 本時の目標

委員会の仕事に不満をもっていた加菜が変容する姿を通して、自分の役割を果たすためにはどんなことが必要かを考えさせ、集団における自分の役割を自覚し、主体的に責任を果たそうとする実践意欲と態度を育てる。

【C よりよい学校生活、集団生活の充実】

(2) 本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 委員会でどんな仕事をしているか、出し合う。	・電子黒板に事前アンケートをもとに作成したテキストマイニングを提示し、始まったばかりの委員会活動を想起させ、資料に関心をもてるようにする。
	自分の役割を果たすためには、どんなことが大切なのだろう。	
展開	2 「わたしは飼育委員」を読んで、話し合う。 ○加菜はなぜ「自分だけ損をしているような気がした」のかを考える。 ○来たときよりも足取り軽く感じられたのは、加菜がどんなことを考えていたからなのか、話し合う。	・心情マークを活用して、全員が加菜の気持ちを考えて、意思表示させる。 ・児童の発言から、1年生との会話を通して飼育委員の活動の意義を見いだしたことで、教室に戻る足取りが軽くなったことに気づかせる。
まとめ	3 クラスや学校の中で任されている役割を果たすためにどんな気持ちで取り組むとよいのか、話し合う。	★【キャリアプランニング能力】 自分が果たすべき役割の意義について自分なりの考えをもつ。 ・加菜を通して考えてきたことを自分に引きつけ考えさせる。委員会にとらわれず、日直や係、給食当番など児童が学校生活で担っている様々な役割を見つめさせる。 ◇どんな気持ちで自分の役割を果たしていこうかと考えている。(振り返りシート)

◆ 成果と課題

【成果】

心情マークを活用することで、全児童が登場人物の気持ちを考え、意思表示をすることができた。そのことで、自分自身が、クラスや学校の中で任された役割について深く考える足掛かりとなった。

【課題】

自分事として捉えた意見を共有するための手立てとして、ICT 機器を取り入れたり、黒板に示したりする必要があった。

第5学年 総合的な学習の時間「大北ワールドカップ」



◆本時の指導（第2時/全10時間）総合3時間・体育7時間



(7) 本時の目標

作戦カードや練習方法を知り、自分やチームに合った作戦を見つける。

(2) 本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 準備運動、めあての確認をする。 ・場の準備をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">自分やチームに合った作戦を見つけよう。</div>	・必要な部位を十分にほぐすよう言葉掛けをする。 ・ゲームにつながる運動をする。 ・安全に気を付けて準備するよう言葉掛けをする。
展開	2 チームの作戦を決める。 3 チームの作戦に応じた練習をする。 4 試しのゲームをする。 5 チームでの振り返り・練習	・作戦に合ったポジティブな言葉を考えさせる。 <div style="text-align: right;"></div> ★ポジティブな言葉を掛け合いながら運動をする。 ◇【思】自己やチームの特徴に応じた作戦や練習方法を選んでいる。（観察・学習カード） ★作戦を意識したゲームをする。 <div style="text-align: right;"></div> ◇【主】仲間と言葉を掛け合い、考えや取組を認め合おうとしている。（観察・学習カード）
まとめ	6 場の片付けをする。 7 整理運動をする。	

◆ 成果と課題

【成果】

ゲストティーチャー（フットサル選手）を招いて授業を行った。児童同士にポジティブな言葉掛けを意識させたことにより、自分やチームのよいところを見つけるきっかけとなった。また、作戦を意識して練習やゲームを行うための話し合いをすることにより、自分がすべき次の行動（プレー）に目を向けさせることができた。

【課題】

ゲームや練習を外から見ていて気付けるよさやできる声掛けがあるので、順番に外から見る時間を設ける等の工夫により、「自分やチームのよいところを見つける力」を伸ばすことが必要である。